

胎便停滞について

荻伏診療所 和智 荘平

生まれてきた仔馬の胎便停滞に対し、みなさんはどう対処していますか？今回は仔馬の胎便停滞について書かせていただきます。

そもそも母馬のお腹の中で何も食べていなかった仔馬にどうして便があるのでしょうか。胎便は消化管の分泌物、嚥下された羊水、剥がれた腸管の細胞などから構成され(写真1)、総量としては体重の1%とされています。通常であれば生後数時間以内に排出が開始され、遅くとも48時間以内に全て排出されます。通常の便とは違い、食物繊維などは含まれていないので、粘土のように固かったり、粘り気があります。長時間同じ部位に停滞した場合には胎便により、ガスや液状物の通過障害が生じ、腸の鼓張、腹部膨満、疝痛症状を起こします。

胎便停滞の病因としては初乳摂取不全、発育不足や敗血症、新生子不適應症候群(NMS)などが挙げられます。牝よりも骨盤腔が長く狭いため牝に発症が多いことが知られています。



写真1: 生後排出された胎便
<https://veteriankey.com/perinatal-review/>より抜粋

胎便停滞を起こしている新生仔馬は胎便の排出を促すため背中を猫背のようにする背弯姿勢を頻繁にとるので気づかれることも多いと思います(写真2)。軽症例では不快感を示し、馬房内を歩き回ったり、落ち着きがなかったりします。哺乳回数が減少し、長時間横になることも認められます。重症例では、前掻き、転げ回る仕草や腹部膨満などの重度疝痛症状を示します。



写真2: 特徴的な背弯姿勢
<https://www.arssales.com/meconium.html>より抜粋

処置方法としては、初乳を十分に摂取させることです。初乳は緩下剤として、腸管の蠕動運動を促します。摂取後も、胎便が排出されない場合には市販のリン酸浣腸、石けん水、アセチルシステイン等による浣腸処置を実施します。

皆様の中には出生後、予防的に浣腸を実施される方もいらっしゃると思います。初乳摂取の前後どちらで行うか様々な意見がありますが、どちらでも差異はないと感じています。しかし、複数回浣腸処置を行うことは腸管穿孔を引き起こすリスクがありますので、排便されない、疝痛症状の改善が見られない時にはかかりつけの獣医師に相談されることをお勧めします。

生産牧場の皆様の一助になれば幸いです。